

私の一步一步を数える方

ヨブ記 11-14 章

はじめに

毎月第四主日の説教は、旧約聖書からすることにしています。私が旧約聖書から説教をする時は、「ヨブ記」からしています。今日は、11-14章に書かれている内容から学びたいと思います。

1. ヨブの試練と信仰

ヨブは、誠実な心を持ち、神様を愛し悪から遠ざかっている人でした。神様は、そんなヨブを祝福して、多くの財産と多くの子ども（十人）を与えられました。

しかしそんなヨブに、サタンが目を留めて、神様にこう言います。「ヨブは、あなたに祝福されて、多くの財産と多くの子どもが与えられているから、あなたを愛しているのです。もし財産と子どもを失えば、あなたへの信仰を捨てるに決まっています」。

そこで神様はサタンに、ヨブの財産と子どもを奪うことを許可しました。するとヨブは、犯罪や自然災害に巻き込まれて、一日のうちにすべての財産と子どもたちを失ってしまうのです。

しかしヨブは、そのような試練の中でも、決して神様への信仰を失いませんでした。彼は、神様を礼拝してこのように言います。「**私は裸で母の胎から出て来た。また裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな**」(ヨブ記 1:21)。

するとサタンはもう一度、神様にこう言います。「ヨブは、財産と子どもを奪われても、健康が与えられているから、あなたを愛しているのです。もし健康を失えば、きっとあなたへの信仰を捨てるに決まっています」。

そこで神様はサタンに、ヨブから健康を奪うことを許可します。するとヨブは、足の裏から頭のとっぺんまで、悪性の腫物で侵されるのです。夜眠れないほどの痛みがあり、やせ細っていきます。内臓も侵され、それが原因で体から悪臭が出るようになりました。その結果、人々からも避けられ、ゴミのように扱われます。そして妻からも、「**神を呪って死になさい**」(ヨブ記 2:9)と見捨てられ、妻は神様への信仰を捨てていきます。

しかしヨブは、そのような試練が続く中でも、神様への信仰を失いませんでした。彼は、妻に向かってこのように言います。「**あなたは、どこかの愚かな女が言うようなことを言っている。私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざ受けるべきではないか**」(ヨブ記 2:10)。

2. ナアマ人ツォファルの言葉

ヨブには、三人の友人がいました。テマン人エリファズ、シュアハ人ビルダデ、ナアマ人ツォファルの三人です。彼らは、ヨブが激しい試練の中で苦しんでいると聞いて、ヨブを慰めに駆けつけます。彼らは最初、ただヨブのために涙を流し、七日間一言も語らずに、ヨブのそばに寄り添い続けたのです。

しかし三人の友人は、ヨブが自分の心の中にある苦しみを語り始めた時から、態度が変わっていきます。ヨブは死を願うほど苦しんでいました。神様がなぜ自分をこのような試練に遭わせるのか、その理由が分からずに苦しんでいたのです。

ヨブ記は全部で43章までありますが、3-31章までは、ヨブと三人の友人との討論が書かれています。その討論は、ヨブの試練の原因は何かという問題を巡っての討論です。

三人の友人は、ヨブの試練の原因を「因果応報」の原理で解釈して、ヨブを教導こうとします。「因果応報」とは、人は必ず自分の行いによって報いを受けるというものです。善いことをした場合は褒美を受け、悪いことをした場合は罰を受けるというものです。この「因果応報」の原理は、時代と文化を超えて、すべての人間の心の中にある原理です。これは、神様が人間の心に植え付けられたものです。この「因果応報」の原理があるからこそ、人間社会の秩序が保たれてきたという面があります。

三人の友人は、ヨブの試練の原因は、ヨブの罪にあると考えます。そしてヨブがもし罪を認めて悔い改めるなら、試練は終わり、神様の祝福を取り戻せるはずだとヨブを教導こうとするのです。

11章には、ナアマ人ツォファルの言葉が書かれています。ヨブはこれまで、二人の友人エリファズとビルダデの言葉に反論してきました。それを聞いていたツォファルは、2-3節でこのように言います。「**ことば数が多いれば、言い返されないだろうか。人は唇で義とされるだろうか。あなたの無駄話は、人を黙らせるだろうか。**」

ツォファルは、「ヨブの言葉は、ことば数が多いただの無駄話だ」と言います。ツォファルもまた、「因果応報」の原理に立って、ヨブの試練の原因はヨブの罪にあると考えます。13-15節でこのように言います。「**もし、あなたが心を定め、神に向かって手を伸べ広げるなら、もし、手に不法があればそれを遠ざけ、あなたの天幕に不正を住まわせないなら、そのとき、あなたは欠けのない者として顔を上げることができ、堅く立って恐れることはない。**」ツォファルは、ヨブがもし自分の罪を認めて悔い改めるなら、試練は終わり、神様の祝福を取り戻せるはずだと言うのです。

ツォファルは、ヨブの試練の原因はヨブの罪にあると決めつけ、ヨブの言葉を真剣に聞こうとしません。ヨブがどんなに苦しみを訴えても、ツォファルには無駄話にしか聞こえなかったのです。

3. 三人の友人に対するヨブの言葉

ヨブは、三人の友人に、「あなたの試練の原因は、あなたの罪にある。だから悔い改めろ、悔い改めろ」と責め立てられるのです。ヨブは財産と子どもたちを失いました。健康

も失い、共に歩んできた妻も神様への信仰を捨てていきました。そして友人たちかも、「悔い改めろ、悔い改めろ」と責め立てられたのです。

神様はなぜヨブに試練を与えられたのでしょうか。それは、試練の中でも神様を愛し続けるかどうかを試すためでした。ヨブの信仰が、御利益信仰ではないかどうかを試すためでした。ヨブからすべての祝福を取り去ってもなお、ヨブは神様を愛し信仰を持ち続けるかどうかを試すためでした。決して、ヨブの罪のゆえの罰などではなかったのです。その意味で、三人の友人の言葉はどれも的外れで、ヨブを苦しめるだけでした。

12-13章の途中まで、三人の友人に対するヨブの言葉が書かれています。12：3でヨブはこのように言います。「**私にも、同じような良識がある。私はあなたがたに劣っていない。これくらいのことを知らない者がいるだろうか**」。「因果応報」の原理は、ヨブも知っていて、誰でも知っているもので、特別な教えでも何でもないと言うのです。しかし私たちの人生に起こる出来事には、「因果応報」の原理では説明できないことが沢山あると言うのです。

12：6には「**荒らす者の天幕には安らぎがあり、神を怒らせる者は安らかだ。神がご自分の手でそうさせる者は**」とあります。私たちの人生に起こる出来事は矛盾だらけ、不条理なことだらけだ、悪者が栄え、正しい者が苦しむということが沢山ある、世の中は「因果応報」の原理では説明できないことが沢山ある、あなたがたはあまりにも単純に物事を見過ぎている、私たちの人生に起こる出来事、世の中に起きる出来事は、もっと複雑であると言うのです。そしてそれは同時に、神様をあまりにも単純な方と見過ぎているということでもあります。この世界の歴史と私たちの人生を導いているのは神様ですが、神様がなさることをすべて「因果応報」の原理で説明できると考えるは傲慢であると言うのです。神様は、人間の知恵や「因果応報」の原理ですべて説明できる方ではありません。私たちの知恵を遥かに超えて、私たちがすべてを理解できない複雑な方です。人間がすべて説明できて理解できる神様など、神様とは言えません。

ヨブは、12：5で「因果応報」の原理で物事を見る人の危険性についても語っています。「**安らかだと思っている者はわざわざいを侮る**」。つまり試練などの苦しみを経験している人は、何か悪いことを犯した罪人と見て、試練などの苦しみを経験していない自分を、何も悪いことを犯していない善人と見るのです。そして試練などの苦しみを経験している人を、自分よりも下に見て、見下すようになるのです。

ヨブは、13：4-5でこのように言います。「**あなたがたは偽りを塗る者、みな無用の医者だ。ああ、あなたがたが沈黙を守っていたら、それがあなたがたの知恵となっていたらうに**」。ヨブは、三人の友人のことを役に立たない医者だと言います。ヨブは、三人の友人に、自分の試練の原因を教えてほしかったのではないのです。医者のように、自分のどこが悪いのか、どうしたら解決するのかを診断してほしかったのではないのです。ただ友人として、自分の苦しみを理解してほしかったのです。自分の訴えに真剣に耳を傾け、ただ黙って寄り添ってほしかったのです。三人の友人は最初の七日間、本当の友人のようでした。何も言わずに寄り添い、共に泣いてくれたのです。しかし彼らは、「因果応報」の原理を振り

かざし、いつの間にか医者のように、ヨブを診断するようになってしまったのです。しかも「やぶ医者」のように的外れな診断をして、ヨブをさらに苦しめたのです。ヨブは彼らに医者ではなく、友人であってほしかったのです。

4. 神と論じ、神への信頼を失わないヨブ

ヨブには、自分を理解してくれる友人はいませんでした。妻も信仰を捨ててしまいました。誰にも頼ることができなかったヨブは、神様へと心に向けていきます。13：3でヨブはこう言います。「**この私は全能なる神に語りかけ、神と論じ合うことを願う**」。友人たちと討論しても埒が明かないと感じたヨブは、神様と論じようとするのです。13章の途中から14章には、神様に対するヨブの言葉が書かれています。

ヨブは、なぜ自分が試練を経験しなければならないのかが分かりません。ヨブは、神様とサタンのやり取りを知りません。ヨブの試練が、ヨブの信仰を試すためのものであること、ヨブの信仰が御利益信仰かどうかを試すためのものであることを知りません。だから神様に直接聞いてみたいと思ったのです。しかし神様は沈黙しておられるのです。

13：22でヨブは神様にこう言います。「**呼んでください。私が答えます。あるいは私に語らせ、あなたが返答してください**」。ヨブは神様との交わりを求めたのです。なぜ自分が試練を経験しなければならないのか分からないけれど、神様の御言葉を聞こうとすること、祈ることを止めなかったのです。

そしてヨブは、13：15で自分の信仰をこのように言い表します。「**見よ。神が私を殺しても、私は神を待ち望み、なおも私の道を神の御前に主張しよう**」。ヨブは、神様が自分を殺しても、神様を待ち望む、神様を信じ続けると言うのです。ヨブは、神様に対する絶対的な信頼を持っていたのです。神様のなさることは常に正しい、神様は決して間違ったことはなさらない、神様のなさることには必ず意味があると信じたのです。ですから、たとえ自分が死ななければならないとしても、病気になるなければならないとしても、愛する人を失わなければならないとしても、どんな苦しみや悲しみを経験しなければならないとしても、神様のなさることなら受け入れますと言うのです。そこに何かの意味があることを信じて待ち望みますと言うのです。「神が私を殺しても、私は神を待ち望む」というヨブの信仰は、決して御利益信仰とは言えません。ヨブは御利益があるから神様を信じていたのではないのです。御利益がなくても、神様が神様であるがゆえに信じていたのです。

おわりに

私たちは三人の友人のようであってはなりません。神様は確かに善に報い、悪を罰する正義の神です。しかし同時に、私たちを愛し、私たちのためにイエス様をこの世に送り、罪人を救う恵みの神でもあります。神様のなさることを、「因果応報」の原理ですべて説明できるわけではありません。神様は、「因果応報」の原理では収まらない大きな方です。神様のなさることは複雑で、私たちの理解を越えているものです。ですから、安易に

「因果応報」の原理で、人を裁いたり、見下したりすることのないように、安易に医者のように人の試練を診断して的外れなアドバイスをするのではなく、試練の中にいる人の声に真剣に耳を傾け、寄り添い、本当の友人となることができるように。

また私たちは御利益信仰ではなく、ヨブのように、神様が神様であるがゆえに信じることができるよう。神様のなさることには必ず意味があることを信じて、試練の中でも神様への信頼を決して失わないように。そして神様との交わりを求めていけるように。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたは私たちの理解を越えた方です。私たちの人生に起こる出来事の意味を、私たちは知ることはできません。しかし聖書は、あなたは正義の方であると同時に、愛と恵みに満ちた方であると教えています。私たちは、あなたの恵みによって信仰が与えられ、あなたに義と認められ、あなたの子どもとして受け入れられ、永遠の命をいただきました。私たちは、どのような試練の中でも、あなたへの信頼を失うことがありませんように。あなたがあなたであるがゆえに信じていけますように。

この祈りを、私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。